

2020（令和2）年度 学校経営計画

1 めざす学校像

教育目標

憲法及び教育基本法の精神に則り、学園がこれまで築き上げてきた「人間尊重」の歴史に学び、現代社会を強く生き抜く人間を育てる為、教育目標を次のように定める。

- 1) 民主的な社会の形成者として必要な基礎学力を培う。
- 2) 仲間とのふれあいの中から、明るく豊かな心と創造性を養い、主体性と個性豊かな人間を育てる。
- 3) 生きる強さと人間的優しさを備えた心身共に健康な人間を育てる。
- 4) 他国の人々の文化や生き方に学び、広い視野に立って、地球環境と平和を守るために、世界の人々と協力できる人間を育てる。

2 教育目標を実現するために(中期的目標)

1 経営基盤の確立

持続的・継続的に安定した学校運営ができるために、健全な財務状況の確立を目指す。

- a) 教職員の採用・人事配置・定数管理・人件費率等、適正に管理する。
- b) 補修工事や新規工事については年度計画に従って行うなど、適正に予算を執行する。
- c) 電力削減やペーパーレス化など、経費意識を持たせ、環境にも優しい学校を目指す。

2 教育内容の充実

「行きたい」「行かせたい」と言われる、地域に信頼され、誇りとされる学校にするため、教育内容を充実させる。

① 基本的な教育内容の徹底及び教職員の資質向上

- a) 将来の自立に向け、基本的な生活習慣の確立、マナー意識、規範意識を育む。また、誰にでも挨拶ができ、男女や年齢に関係なくコミュニケーションがとれる生徒を育成する。
- b) 新学習指導要領については、運営委員と教務部が中心となり、教員全体への情報提供と職員会議での議論から決定へ。
- c) 中堅進学校としての大学進学実績の向上をめざす。4年制大学への進学率を75%以上に。国公立大学や難関私立大学、中堅私立大学、さらには志望の多い看護・医療系、薬学部への合格実績をあげる。そのために、目標達成に向けて努力する態度を養い、志望校合格に向け最後まで挑戦する姿勢・意欲を生み出しサポートする。
- d) 大学進学実績向上のためにも、英検やNEWS検定、GTECといった検定に積極的に取り組むと共に、実力テストの事前・事後指導と分析をきちんと行う。
- e) 教員全員が受験指導もできるレベルになるよう、スキルアップを図る。また、生徒による授業評価アンケートを継続実施し、日々の研鑽につなげる。
- f) 文化行事や講演会を企画し、情操教育の充実を図る。
- g) 租税教室や税の作文への参加を通して、税と社会基盤整備の重要性について学ばせる。
- h) プログラミング教育についての研究をスタートさせる。

② ICT化の推進

- a) 生徒の活動をポートフォリオ化するために、ICT機器を用いてデータを蓄積する。
- b) 教員用小型モバイルと生徒用学習モバイルの採用について検討を進める。
- c) ネットでの各家庭との連絡ツールを利用し、保護者との連携を密にする。
- d) オンライン英会話を全学年・全コースの生徒対象で実施する。
- e) 全教室Wi-Fi化を推進し、必要な設備工事を実施する。

③ 国際化の推進

- a) 中学・高校を問わず、海外の学校との交流を図り、たくさんの生徒が交流に関われるようにする。本校の生徒を積極的に海外へ送り出し、海外での生活を経験させる。
- b) 今年初めて3方面で実施する高校の海外修学旅行が、安全かつ有意義なものとなるよう、準備・催行する。

④ 学校の環境整備

- a) いじめ対策として、教員には、策定済みの「いじめ対策基本方針」を再確認。生徒にはアンケートや通報システムにより早期発見に努める。
- b) 「部活動の活動方針」に沿った適切な部活動の実施。
- c) 情報教室のPCやシステムなどの更新を行う。特別棟の被服教室の移転と準備室などの有効活用を図る。
- d) 男子トイレの個室すべてにウォシュレットを完備する。

⑤ 労働環境の整備

- a) 労働条件等について随時労使で検討し、より良い労働環境を追求する。
- b) 長時間労働を良しとしない職場風土作りと、年間5日以上の有給休暇取得に向けての環境整備を継続して行う。
- c) 社内連絡用ツールとして使用するシステムを利用して、出退勤時間と労働時間の管理を行う。
- d) 各種会議の回数と時間の削減を全員で心がける。

⑥ その他

- a) 同じ法人の中・高・大の連携を強化し、法人全体の活性化につなげる。
- b) 募集活動をさらに充実させる。次年度の目標は中学70名高校400名。
- c) 成人年齢引き下げで、高校在学中に成人年齢に達する生徒が存在するようになる。「主権者教育」「消費者教育」「金融教育」の実施。
- d) 創立100周年に向け、ビジョンの策定及び準備を始動する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [2021年1月実施分]	学校協議会からの意見 (実施: 2021年2月1日オンライン会議)
<p>昨年度3月から引き続き、休校措置が4月5月と続き、6月は分散登校。7月になって初めて全員登校が可能になり、1学期は事実上計画は一つ実行できなかった。8月から感染拡大に注意しながら、可能なものから実行していったが、達成度は6割程度の実感である。そんな中、休校期間中に一部の実技科目を除くすべての授業をオンラインで実施できたのは大きな収穫であった。文科省の提唱するGIGAスクール構想の一部を、なかば強制的ではあったが、実現できたのは不幸中の幸いであった。今後もICT機器を使った新しい教育へとつなげ、より効果的な学習環境を生徒達に提供していきたい。</p> <p>コロナ禍で一番大きな影響を受けたのは国際交流関係で、本校の生徒が海外に行く機会のごとく奪われ、逆に海外からの訪問もなく、今年度は何もできなかった。唯一、高校卒業後に海外の大学に進学したいという生徒が増加傾向にあることだけが評価できる点である。今後もこういう状況が続くとするならば、ネット環境を利用した交流を模索し、渡航が可能になる日を待つしかないように思う。</p> <p>工事関係は、老朽化が進む講堂の外壁と屋根の補修を実施し、懸案が一つ解消された。次年度より、生徒一人一台に小型PCを持たず計画があるので、校内のWi-Fi環境の整備を完了した。今後は学習活動において情報端末を有効に活用できる準備が整ったわけだが、使い方・マナー指導にも力を入れ、ネットトラブルに巻き込まれない様になりたい。</p>	<p>今年は、コロナ禍により生徒の健康と学習の両立という大変な問題が学校に降りかかったなか、最善の努力と対応をしていたように思う。感染者はゼロではなかったが、大きな感染拡大にはならず、生徒や保護者の安心につながった。また、休校が続く中、いち早くオンライン授業を開始、夏休みも短縮して授業日数を確保するなど、学習の遅れに対する不安を払しょくできたことは特筆に値する。</p> <p>国際化に対する多くの計画が実現できなかったことは、この状況では責められない。今回の経験から、コロナ後の対策に切り替えられ、新たな計画を構築していただきたいと願う。</p> <p>そんな中で、校舎・設備に対する計画は確実に進み、次の一步に対する準備ができているようで頼もしい。今後の情報科社会に備えて、学校も「プログラミング教育」等、最先端の技術や知識に生徒が触れる機会をもっと提供して頂きたい。</p> <p>来たるべき100周年に向けて、今後のあるべき姿を描き、関係者全員が共有できるようビジョンを示されることをお勧めする。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 経営基盤の確立	人事の活性化と教員の定数管理・労使の連携・適性な予算執行	① 専任教員の年齢バランス、常勤・非常勤講師の数的バランスを考慮し、採用計画を立てる。 ② より魅力ある学校作りのための人事や時間配当を行う。 ③ 労使双方より代表を出し合い、労働条件についての協議を行う。 ④ 施設工事等、計画的に予算執行を行う。	① 年齢バランスが取れるような人事採用ができたか。 ② バランスのとれた人事配置により、教職員が活性化するか ③ 人件費率が60%以内に収まるか ④ 「給与関連検討委員会」を継続的に開催し、より良い労働条件を見出せるか ⑤ 計画通り予算執行できたか。	① 中堅の教員が複数獲得でき、バランスが整った【◎】 ② 若手のやる気と貢献度が上がった【◎】 ③ ぎりぎり60%以内に収まった。【○】 ④ 最終合意までこぎつけ、次年度より施行【◎】 ⑤ コロナにより、事業計画がことごとく頓挫し、予算全体としては計画通りとはいかなかったが、施設工事についてはほぼ予定通りに実施できた。【○】
2 教育内容全般の充実	より魅力ある学校を目指し、教育内容全般の見直しと実現にむけての準備を行う	① 教務部と運営委員会を中心に、新学習指導要領にそったカリキュラムを完成する ② 英検を中心に資格取得を奨励し、学習リズムの定着と自己肯定感を高める ③ 大学入試改革への適切な対応と受験指導の向上を図る ④ 「プログラミング教育」や「金融教育」等、新しい教育内容に対応できる教員の養成	① 10月までに新カリキュラムが決定されているか ② 中学生は卒業までに全員英検3級以上合格。高校生は卒業までに半数が準2級合格するか ③ 公募制と一般入試受験の生徒を増やし、昨年の合格実績を上回る結果が残せるか ④ 新しい教育の教材やテキストの準備、授業案が確立できるか	① 12月末に決定。準備に遅延が出る可能性あり【×】 ② 中・高とも目標達成ならず【×】 ③ ④ オンライン授業により、新しい教育への取り組みが進んだが、改善の余地は大きい。【○】
3 ICT化の推進	5G時代をにらみ、教室・校舎内の環境整備と情報機器の選定、モラルとマナー指導の徹底	① 全教室のWiFi 化工事を推進し、ICT活用環境を整備する。 ② 生徒用のモバイルについて、検討から決定へ ③ 学校内に携帯電話の持ち込みを許可したことでの混乱は回避できているが、SNSなどの不適切な使用についてのモラルとマナー指導は、恒常的に実施	① WiFi 化工事が年度内に施行され、校内のネット環境が整備されるか ② 次年度の新入生より持たせるモバイルが決定できるか ③ 携帯電話に関して策定した生徒指導のルールがスムーズにかつ有効に機能するか	① 工事は予定通り施行され、環境整備できた。【◎】 ② 2学期末には、機種選考が終わり、決定できた。【◎】 ③ 大きな問題は発生していないが、生徒への徹底が完全ではない所もある【○】
4 国際化の取り組み	すべての生徒が海外の生徒と触れ合う機会の確保と異文化への理解を深める。	① 中学・高校共積極的に海外交流を受け入れる、逆に短期の語学研修にできるだけ多くの生徒を参加させる。また、海外大学への進学希望者への情報提供とアドバイス・合格指導を実施する。 ② ヨーロッパ2方面と台湾の計3方面から選択できるようにした高校修学旅行を安全かつ有意義に催行する。 ③ 台湾とマレーシアの大学への進学を推奨し、実現させる	① 中学・高校共、年間3回以上の交流を実施できるか ② 交換留学生が3名以上。カナダ語学研修15名以上、フィリピン語学研修10名以上の参加があるか ③ 高校修学旅行が予定通り安全に催行されるか ④ 海外大学への進学者が10名以上	① コロナのため、海外からの来日者は0【×】 ② コロナのため、海外渡航禁止【×】 ③ 海外への渡航禁止で、催行されず【×】 ④ 海外の大学への進学者は8名【△】
5 労働環境の整備	働き方改革に沿って、より良い環境整備を行う	① 年間五日以上の有給休暇取得に向け、労使で話し合い、全員必ず取得できるよう整備する。 ② 管理職は、長時間労働を良しとしない職場風土作りと時間管理を行う。 ③ 会議の精選と、時間を区切った会議を全員が心がける。	① 教職員全員が5日以上の有給休暇を取得できるか ② 長時間労働の教職員に対し、管理職が実態を把握し、労働量が適切であるかのチェックをし、声掛けができるか ③ 会議時間を10%短縮できるか	① 全員取得できた【◎】 ② 把握と声掛けは実行できたが、従わない教員も少数ながら存在する【△】 ③ 目標数値は達成できた【◎】
6 その他		① 同一法人内での中・高・大を連携をさらに進める。 ② 募集活動を充実させ、目標数を獲得する。 ③ 災害時用品の備蓄 ④ 学園の創立100周年に向けての準備を始める。	① 現在実施されている連携に加えて新しい連携事業をスタートできるか ② 中学70名高校400名の新入生を獲得できるか ③ 数日分の水・食糧・シートを備蓄できるか ④ 「100周年準備委員会」の本格的な活動ができるか。	① コロナ禍で、新しい取り組みはスタートできず【×】 ② 中学66名高校 名の入学生を迎える事ができた。【△】 ③ 備蓄場所の問題で進まず【×】 ④ 本格的なスタートとはならず【×】